

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：34428

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370675

研究課題名(和文) 文学作品を用いた英語教育が学習者に齎す効果の実証的研究

研究課題名(英文) An Experimental Study of the Effect of the English Education Utilizing English Literature in the ESL Classroom

研究代表者

吉村 征洋 (YOSHIMURA, MASAHIRO)

摂南大学・外国語学部・講師

研究者番号：90524471

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、英語教育で文学作品を効果的に活用するための読解法 "Dual Text Approach" (DTA) を考案・開発した。DTAとは、Graded Readers (GRs) の読解をベースにしながら、文学作品の原著の中で literariness (文学性) が顕著にみられる箇所を抜粋し、GRs と比較読みをすることで、GRs には欠落している literariness を学習者が味わうことを目的とした読解法である。DTA が学習者に及ぼす影響を質問紙により検証した結果、DTA は学習者の情意面にある一定程度の有意な影響を及ぼすことがわかった。

研究成果の概要(英文)：In this research, we develop a new approach to read literary works, which we call 'Dual-text approach' (DTA). DTA encourages students to pay more attention to the language forms as well as get a taste of authenticity and literariness. Students are assigned certain pages of a graded reader to read before each class. In class, students are given extracts from the authentic literature to read side by side with the corresponding pages in the GR, to find the differences in expressions and literariness between those texts. We conducted a pre-post questionnaire survey of the students studying with the DTA. The results of the questionnaire survey revealed that our students had positive attitudes to DTA.

研究分野：英文学・演劇

キーワード：文学作品 英語教育

### 1. 研究開始当初の背景

現在、日本の大学英語教育では、英米文学作品を用いた英語教育は、コミュニケーション重視の実学志向とは相容れないものとされているが、これはあくまで教授法の問題であって、英語教育のコンテンツとして文学作品を用いることが、コミュニケーション重視の教育と相反することにはならない。文学作品を英語教育のコンテンツとして用いる方法を工夫すれば、文学作品を利用した英語教育が学習者に効果的に作用するのではないかと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、文学作品をコーパス分析して英語教育に利用し、学習者が質的・量的にバランスの取れたインプットをすることで、学習者の情意面に与える効果を検証することにある。まず、文学作品のコーパス化を通じて、目標とする言語項目や文法項目を効率的に選定する。その上で、コミュニケーション活動を重視しながら、学習項目に学習者の注意を向けさせる FonF を授業実践の場で行う。これにより、学習者の英語力や動機づけ、さらにはコミュニケーション力向上に効果があることが期待できる。

### 3. 研究の方法

(1) 平成 25 年度は、学習者の嗜好を意識した文学作品を選定し、それをコーパス化した。また、ターゲットとする言語項目・文法項目の特定および選定を行い、質的・量的にバランスのとれたインプットができる教材を選定した。

(2) 平成 26 年度には、研究代表者や研究分担者の勤務する大学を中心にして、平成 25 年度に選定した教材を用いた授業実践を行った。また学習者に対して、授業前後にアンケート調査やインタビュー調査を実施して、学習者の英語力や動機づけに与える効果などを多角的に検証した。プレ・ポストでの変化を比較・検討する手法を用いることによって、授業実践による教育的効果を測定した。こうして得られた情報を統計的に考察することで、コーパス分析を利用した文学作品を英語教育に用いることが、学習者に及ぼす効果を総合的に検証できた。

(3) 平成 27 年度は、平成 26 年度で得られた研究結果を国内外の学会にて学会報告を行った。

### 4. 研究成果

(1) 新しい文学作品の読み方 (Dual Text Approach) の開発：

文学作品を英語教育に用いる際に問題となるのが、文学作品に出てくる英語の難易度である。シェイクスピアを筆頭に英米文学作品に出てくる英語の難易度は総じて高い。こ

うした現状を考慮して、学習者の英語力に合わせて文学作品を retold したものが、多読用教材として普及している Graded Readers (以下、GRs) である。学習者は自分の英語力に合わせて好きな作品を選び、話の筋の大意を掴むことができる。ただし問題として挙げられるのが、GRs の英語と本物の「文学作品」の英語との乖離である。GRs は学習者の英語力に合わせて語彙や字数を制限し、表現や内容を簡易化している。McKay (1982) は、「簡易化は情報が希薄化され、均質化されたテキストを生成する」というデメリットを指摘している。こうした簡略化は、文学作品が本来持つ “literariness” (文学的言語形式) を損なう。一方で、文学作品を授業で用いるには英語の難しさの問題に加えて、文章の長さの問題がある。難易度の高い英語の文章を大量かつ短時間でインプットすることは難しい。1 学期間、もしくは 1 年間を要しても、1 クラスの授業で、小説などの長編作品を通読するのは困難である。短編を扱えばこの問題は解決できるかもしれないが、数や種類が限定されてしまう。また多くの大学英語教科書に見られるように、文学テキストから英文の一部を抜粋して取り上げるという方法もあるが、Brumfit & Carter (1986) や Widdowson (1979) が指摘するように、テキストから一部抜粋は、話の繋がり、さらには意味や仕掛けなどを断絶してしまう恐れがある。作品全体のストーリーを読んでこそ、文学作品を味読したと言える。

こうした文学作品と GRs がもつ欠点を補いながら、その長所を最大限生かすには、文学作品と GRs を比較しながら読む方法 (Dual-Text Approach, 以下、DTA) が有効ではないかと考えた。まず、外国語を習得する上で、学習者が英語を大量にインプットする必要があることは、これまでの SLA (Second Language Acquisition) 研究で示されている (Krashen, 1982)。そこで、学習者の英語力に合った GRs を使用し、大量のインプットを学習者に与える。ただし、GRs の英語は学習者の英語力に合わせて簡略化 (simplify) されているため、精緻化 (elaborate) などとは異なり、内容理解は助けても、言語習得はあまり促進しないという短所がある (Long, 2009)。この短所を補うために、特徴的な文学的言語形式が見られる箇所を原作から抜粋し、学習者はその抜粋と GRs の該当箇所を並べて、比較読みを行う。学習者が GRs でプロットを理解した後に、文学作品の抜粋を比較しながら読むことで、文学作品の言語形式に焦点を合わせて深く読むことができ、それは、インプットの精緻化に繋がることになる。さらに、文学作品に出てくる会話表現や会話を支えるコンテキストを学ぶことで、コミュニケーション能力の向上も期待できる。このように GRs と原作の比較読みを行うことで、学習者は質と量を兼ね備えたインプットを得ることができ、学習者の言語習得面・情意

面において、有益な影響を及ぼすことが期待できる。

(2) DTA が学習者に及ぼす効果：

私立大学の年生約 100 人に対して、GRs と文学作品を併用した DTA アプローチによる授業を実施した。宿題として毎回 GRs の指定個所を事前に読み、要約と疑問点を書いてくるよう指示した。読解量は、半期 15 回の授業で学生が GRs を 3、4 冊読解するようにした。授業では、宿題の指定個所から文法項目をターゲットにしたワークシートを用意し、ロールプレイなどのコミュニケーション活動を通して、学習者がターゲットとする文法項目を暗示的に習得できるようにした。その後、指定個所から特に注目したい文学的言語形式を含む文章を抽出し、GRs の英文との比較読みを行った。こうして深くオーセンティックな英文に触れることで、GRs を読む際には気づかなかつた言語形式への「気づき」を促し、文学作品の持つ literariness を味わうことができると考えた。

この指導法の学習効果を測るために、本研究では授業実践後にアンケート調査を実施し、とりわけ学習者の動機づけなど情意的側面に与える効果を検証した。アンケートでは、「価値」(7 件法、計 4 項目、項目例「この学習法は、自分にとって(1) 全く役に立つと思わない~(7) とても役に立つと思う」)、「期待」(7 件法、計 4 項目、項目例「この学習法を使えば、自分はきちんと読める自信が(1) 全くない~(7) とてもある」)、「文学作品への興味・関心」(7 件法、計 4 項目、項目例「この学習法によって、文学的表現に気づくことができた(1) 全く思わない~(7) 強く思う」)に関する質問紙調査、ならびに学習法について思ったこと/感じたことを自由に記述してもらう自由記述調査を行った。質問紙調査の結果から、対象となった大学生は DTA の価値を強く認識し ( $M = 5.50$ ,  $SD = 0.98$ )、文学作品に対する魅力も感じていた ( $M = 5.12$ ,  $SD = 0.96$ )。一方、文学作品を読み込む自信については前者に比べ若干低い傾向 ( $M = 4.52$ ,  $SD = 0.97$ ) が見られた。ただし、自由記述からは「登場人物や誰が言っているセリフが理解しながら読むのは難しいと思いました。でもこれを学習法として取り入れると、読む力や理解力も上がるのかなと思います」「オリジナルの作品の意味を理解することが難しくても、多読教材と組み合わせれば、難しい表現の意味の理解に役立つし、表現の幅が広がると思う」などのコメントも得られ、ある程度継続して DTA を取り入れた教育実践を行うことで、学習者の自信や期待を高められる可能性のあることが示唆された。

<引用文献>

吉村征洋、桐村亮、廣森友人「Graded Readers と文学作品の比較読みが学習者に齎

す効果について」日本英文学会『第 86 回大会 Proceedings』2014、25-26

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 3 件)

仁科恭徳、吉村征洋、桐村亮、廣森友人、「日本人英語学習者における DTA 体験のモデル構築に関して」、『神戸学院大学グローバル・コミュニケーション学会紀要』、査読有、創刊号、2016、35-54

吉村征洋、桐村亮、廣森友人、「Graded Readers と文学作品の比較読みが学習者に齎す効果について」、『日本英文学会『第 86 回大会 Proceedings』、査読無、2014、25-26

Masahiro Yoshimura, Tomohito Hiromori, Ryo Kirimura, Yasunori Nishina, An effective way to utilize Graded Readers in the EFL classroom: Reading Graded Readers comparatively with their original literary works, *Proceedings of the International Conference on Language and Communication 2013: Innovative Inquiries and Emerging Paradigms in Language, Media and Communication*, 査読有、2014、46-56

[学会発表](計 4 件)

Masahiro Yoshimura, Tomohito Hiromori, Ryo Kirimura, An Approach to Enjoying More "Literariness" in the Process of Language Learning, International Conference on Inclusive Education and Mother Tongue-Based Multilingual Education 2016, 2016 年 2 月 18 日、マニラ (フィリピン)

Masahiro Yoshimura, Tomohito Hiromori, Ryo Kirimura, An Effective Approach to Use English Literature in the EFL Classroom, International Association of Applied Linguistics (AILA 2014), 2014 年 8 月 14 日、ブリスベン (オーストラリア)

吉村征洋、桐村亮、廣森友人、「Graded Readers と文学作品の比較読みが学習者に齎す効果について」、『第 86 回日本英文学会、2014 年 5 月 24 日、北海道大学 (北海道・札幌)

Masahiro Yoshimura, Tomohito Hiromori, Ryo Kirimura, Yasunori Nishina, An effective way to utilize Graded Readers in the EFL classroom: Reading Graded Readers comparatively with their original

literary works, 5th International Conference on Language and Communication、2013年12月12日、バンコク(タイ)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕  
出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

吉村 征洋 (YOSHIMURA, Masahiro)  
摂南大学・外国語学部・講師  
研究者番号：90524471

### (2) 研究分担者

桐村 亮 (KIRIMURA, Ryo)  
立命館大学・経済学部・准教授  
研究者番号：40584090

廣森 友人 (HIROMORI, Tomohito)  
明治大学・国際日本学部・准教授  
研究者番号：30448378

仁科 恭徳 (NISHINA, Yasunori)  
神戸学院大学・グローバル・コミュニケーション学部・准教授  
研究者番号：00572778

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：